

動脈硬化に着目した健診コースを設定して

～頸部超音波検査を生活改善への動機付けに活用する～

○武藤 和也、星 佳子、村上 宏子、渡辺 和幸、野崎 洋文

【はじめに】

当センターは、市民を対象に健康増進、疾病予防等の総合的な健康づくりを推進することを目的とした施設である。厚生労働省が平成20年にメタボリックシンドロームに着目し、「特定健診」「特定保健指導」を義務化したことを踏まえ、当施設では、動脈硬化の一指標である頸部超音波検査の画像を利用した、動脈硬化チェックコースを新たに設定したので報告する。

【健診内容】

○経過：平成19年度から市民を対象に、健康維持を目的とした、アンチエイジング健診・メタボリック健診を新規事業としてスタートしたが、平成21年度までの3年間、年毎に受診者人数が減少した経過がある。そこで、平成21年度に超音波診断装置が導入されたことを機に、頸部の超音波検査に着目した結果《動脈硬化チェック健診》コースを設定し、平成22年4月から開始している。

○健診項目 1) ライフスタイル・栄養状況調査

2) 体力チェック

3) メディカルチェック：理学的検査（診察、計測、体脂肪率測定）・血液検査（貧血検査、生化学検査）・肺機能検査・心電図検査・眼底検査・頸部超音波検査

○健診の流れ：問診票（ライフスタイル、栄養状況）を調査し、メディカルチェックを実施。

その後、体力チェックを受け、結果を基に医師の判定説明後、保健師、管理栄養士、トレーナーによる総合アドバイスを実施している。

【結果】

平成22年4月から7月現在の受診者は、全て自分の動脈硬化の状態を知りたいと希望された方である。当センターの動脈硬化チェックコースは、総合的に身体状況がわかり、専門スタッフの個別のアドバイスが加わり生活習慣改善の動機付けになった。

【まとめ】

現在総合アドバイスは、医師と看護職が中心となり受診者に説明を行っている。その際、看護職より頸部超音波検査の受診者からの質問に対して、説明に不安を感じているとの課題があがった為、今後のアドバイスに、臨床検査技師がスタッフに加わり、医師と連携しながら、頸部超音波画像を利用し、動脈硬化について受診者に理解しやすく説明できる態勢を整えていきたい。